



唐津市
論点データ集（基礎データ編）サマリー資料

参考資料 1

目次

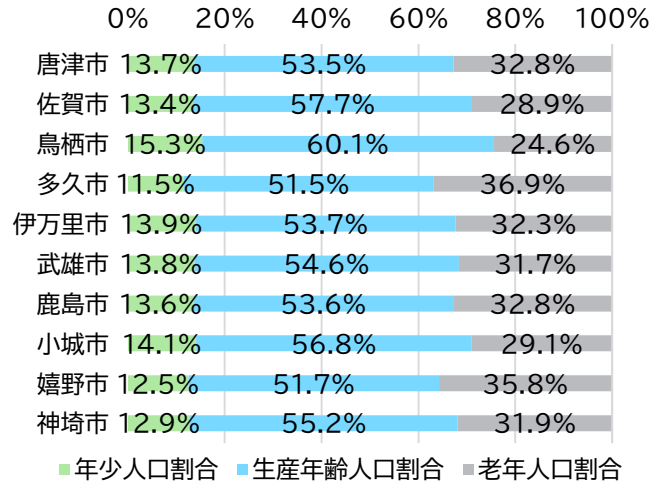
1.各論点にかかる主要な調査結果	3
1 - 1.【人口】	4
1 - 2.【産業・経済】	5
1 - 3.【教育】	8
1 - 4.【医療・福祉】	9
1 - 5.【都市基盤・生活環境】	10
1 - 6.【財政】	11

1.各論点にかかる主要な調査結果

1 - 1.【人口】

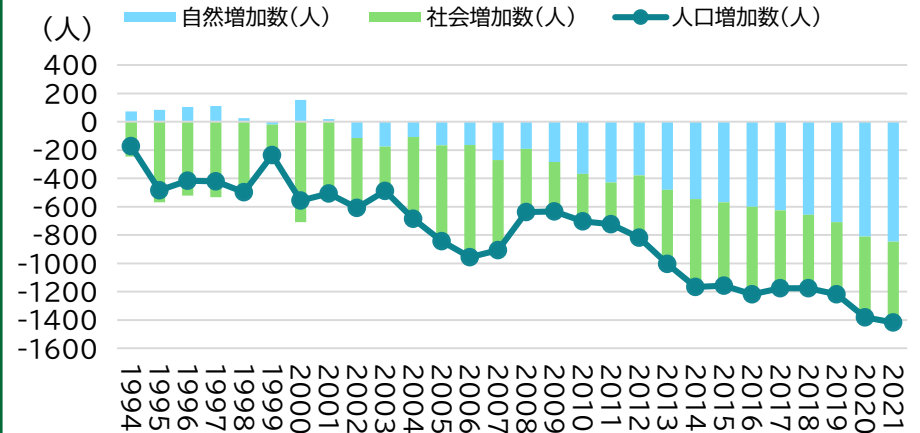
人口の年齢構成の県内10市との比較（2020年）

唐津市は佐賀市や鳥栖市と比較すると、**老年人口の割合が高く、高齢化の実態が顕著である。**



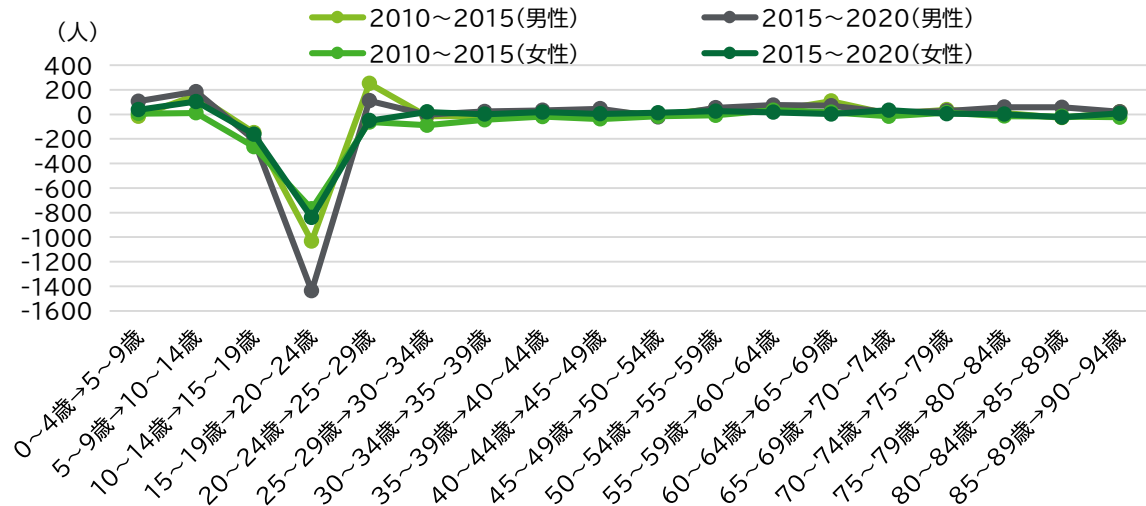
唐津市の自然増減・社会増減の推移

自然増、社会増ともに年々減少数が増加し、人口流出が続いている。



性別・年齢階級別の人口移動の状況

男女ともに15～19歳、20～24歳の期間で大幅な**転出超過**となっている。
性別で見ると、女性よりも男性の方が転出超過数は多くなっている。
25歳～29歳の期間では反転して**転入超過**となるが、前述の転出超過をリカバーはできていない。
以降の年代の動きは±50人前後でほとんど横ばいである。



1 - 2.【産業・経済】

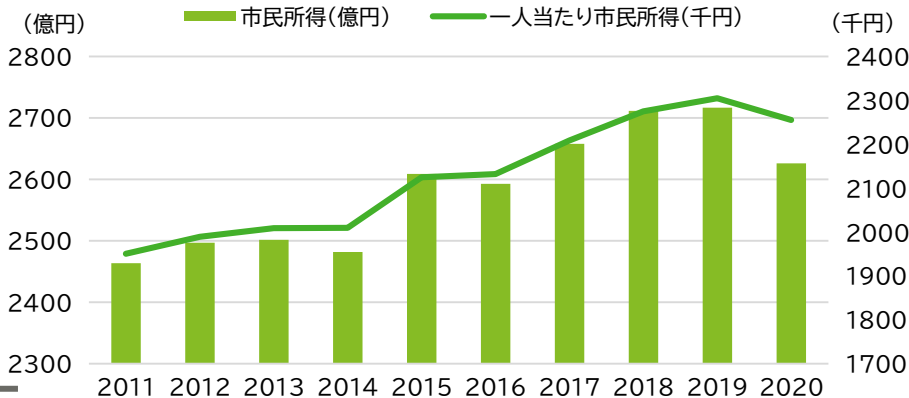
市内総生産（2020年）

2020年度市内総生産額は3,496億円で、前年度に比べ126億円（3.5%）の減となったが、2011年度に比べ374億円（12%）増加している。
 生産額の産業別構成比をみると、第一次産業が131億円で3.8%、第二次産業が952億円で27.2%、第三次産業が2,407億円で68.9%である。全産業が近年はほとんど横ばいで推移している。



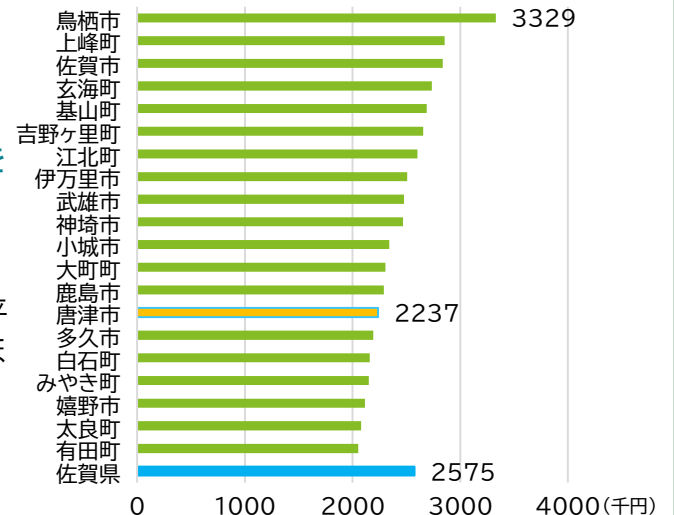
市民所得の推移

唐津市の市民所得、一人あたり市民所得は2011年以降、増加傾向にあったが、2020年は前年度に比べて減少している。



市民一人あたりの所得の県内市町比較（2020年）

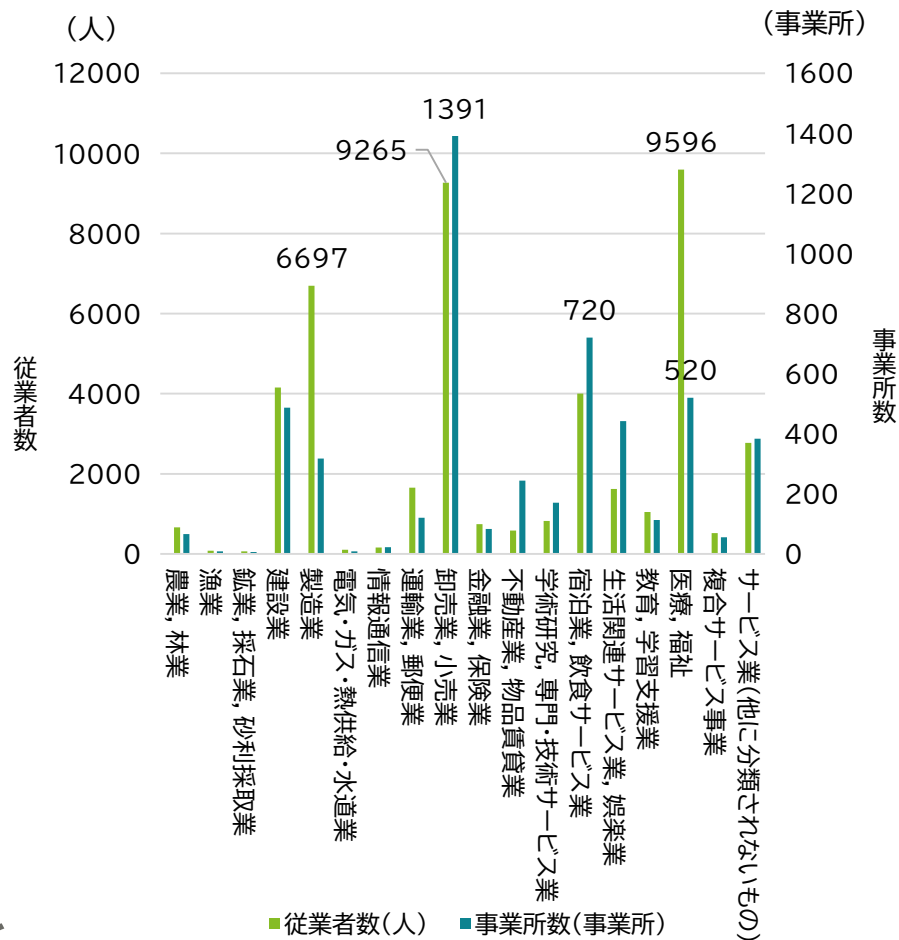
唐津市の市民一人あたりの所得を県内市町で比較すると下から7番目に低い。これは佐賀県の平均よりも30万円ほど少ない。



1 - 2.【産業・経済】

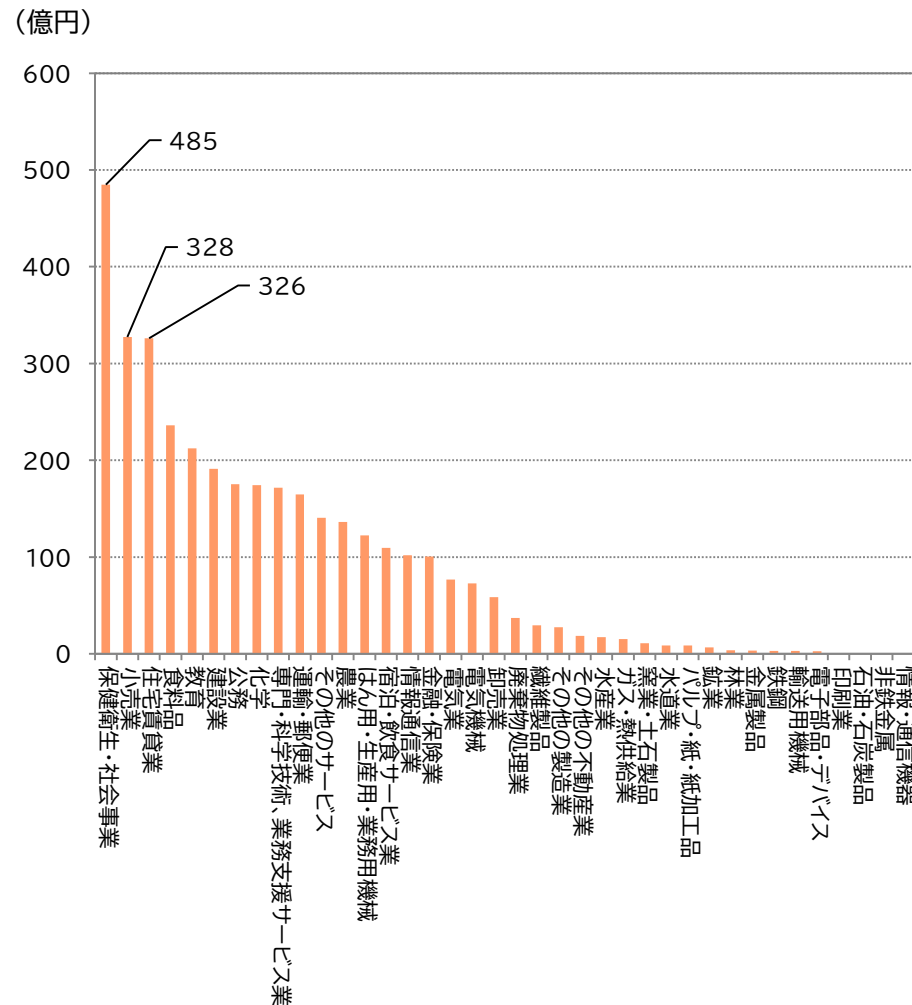
大分類別にみた従業者数と事業所数（2022年）

事業所数を見ると、最も多いのは卸売業、小売業の1,391事業所である。次いで、宿泊業、飲食サービス業の720事業所となっている。従業者数を見ると、最も多いのは医療、福祉の9,596人、次いで卸売業、小売業の9,265人である。



産業別付加価値額（2018年）

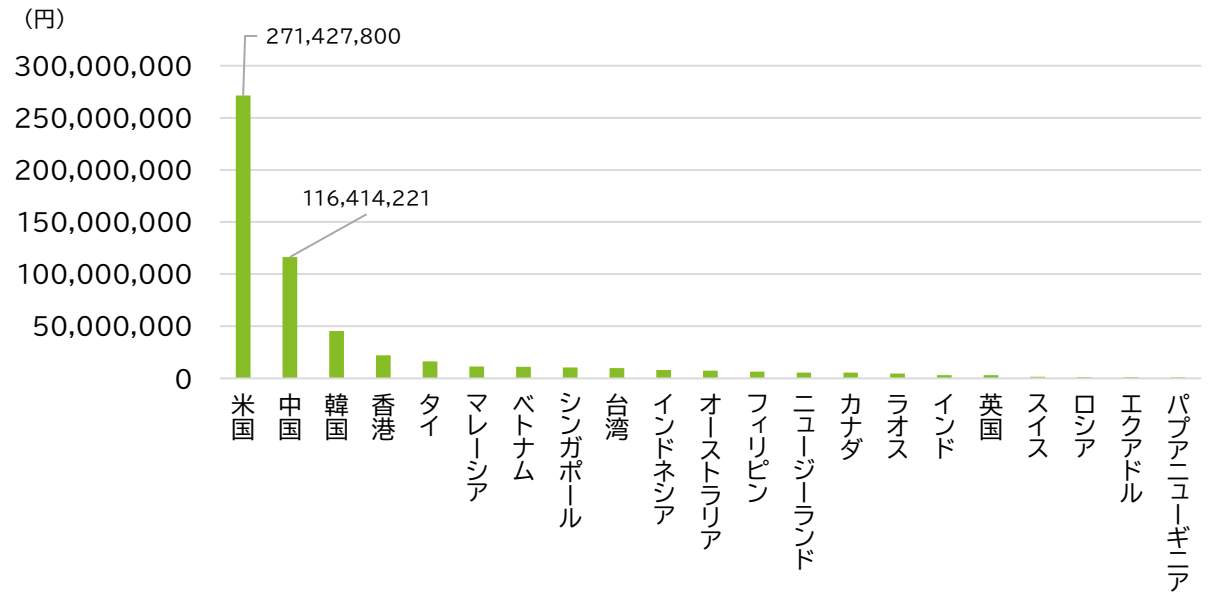
付加価値額が最も大きい産業は保健衛生・社会事業で485億円であり、次いで小売業、住宅賃貸業、食料品の付加価値額が大きい。



1 - 2.【産業・経済】

外国人の佐賀県内での国・地域別消費額(2021年)

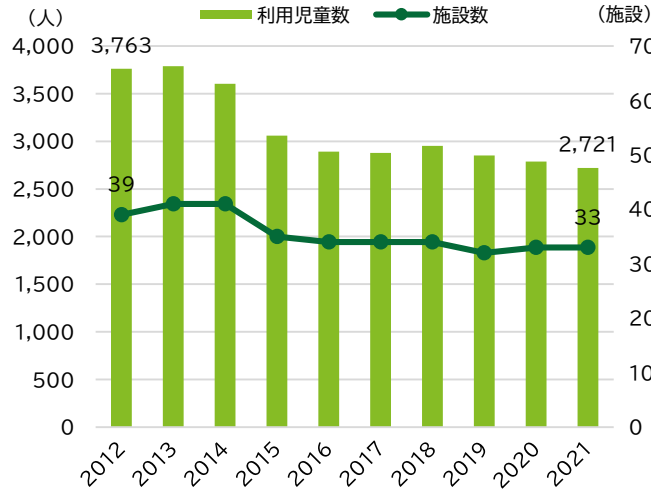
外国人の県内での消費額を国・地域別にみると、
国別では**米国が約2.7億円と圧倒的に大きく、2位の中国の2倍以上**となっており、**2位以下を大きく引き離している。**
地域別では、米国に次いで、**2位以下に中国・韓国・香港**といった**東アジア地域が集中している。**



1 - 3.【教育】

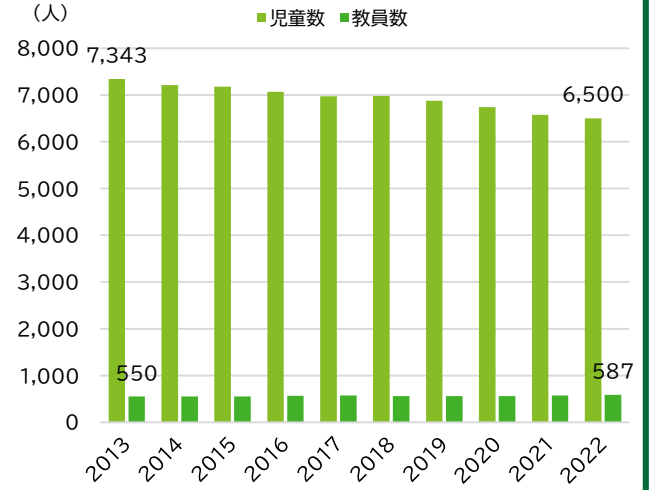
保育所の利用児童数・施設数

保育所をみると、幼稚園と同様、利用児童数・施設数ともに2015年に大幅な減少がみられたのち、しばらく横ばい推移となるが、**利用児童数のみ、2018年以降減少傾向が続いている。**



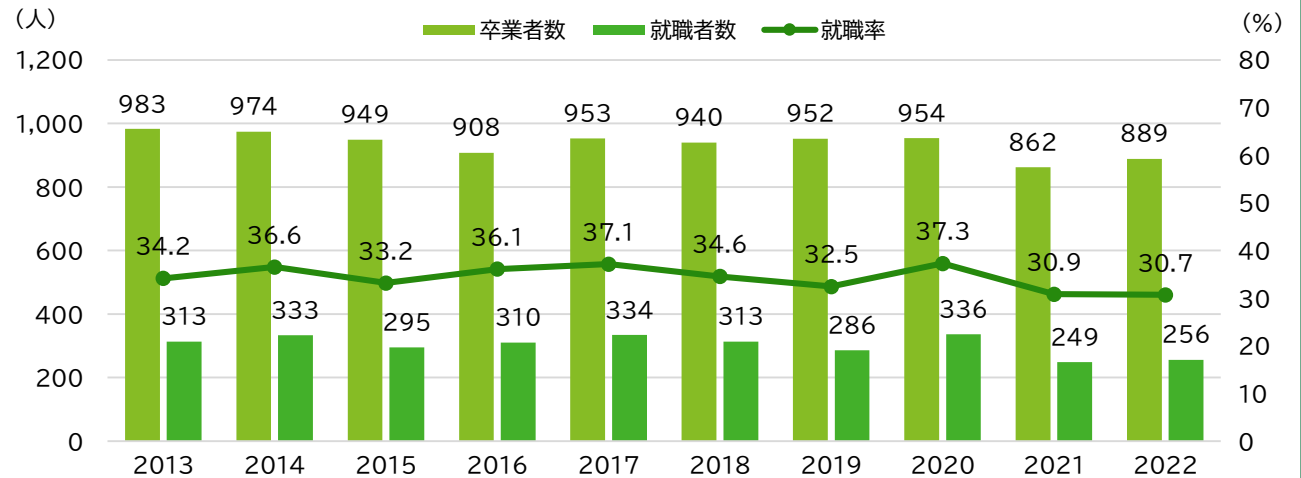
小学校児童数・教員数

小学校をみると、**児童数は2013年以降継続して減少し、2022年には2013年より800人以上の減少となった。**一方、**教員数については微増傾向にあり、2022年は2013年より37人多い587人となっている。**



市内高校卒業者の就職内定実績

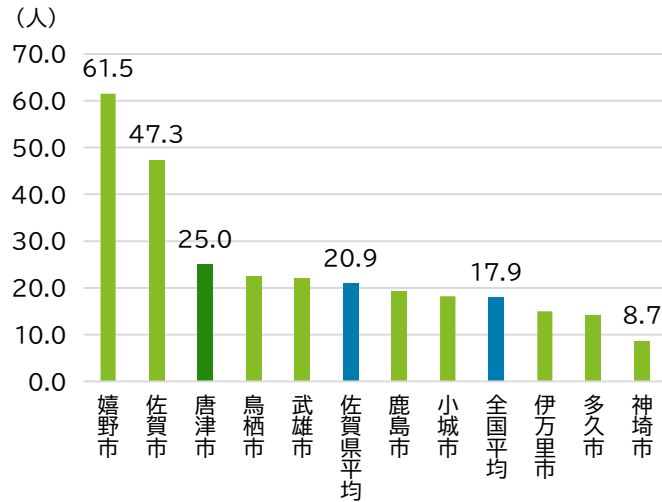
市内高校の卒業生数は近年特に大きな変化はないが、**2021年に過去10年間ではじめて900人以下となり、2022年も889人となっている。**就職者数、就職率についても微増微減を繰り返す横ばいで推移しているが、**2020年に就職率が37.3%と過去10年間で最も高い値となったものの、2021年には30.9%と落ち込み、2022年には30.7%と10年間で最低値となった。**



1 - 4.【医療・福祉】

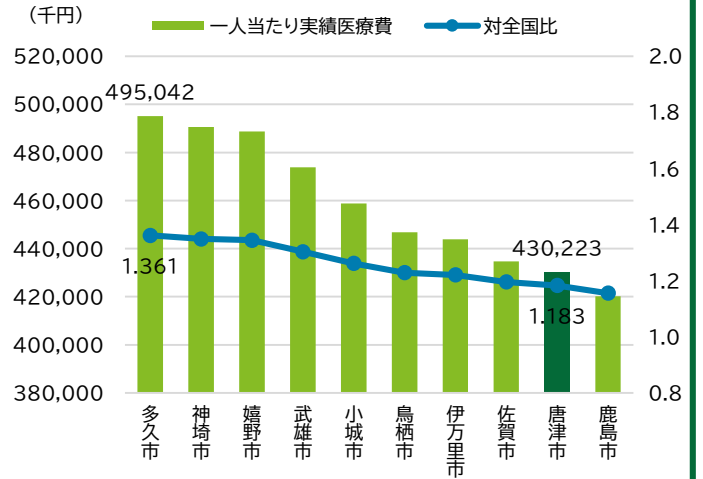
1万人当たりの医療施設医師数（2020年）

人口1万人あたりで比較をしても、嬉野市、佐賀市、に次いで県内市で3番目に多い。佐賀県内平均と全国平均よりも多い数値となっている。



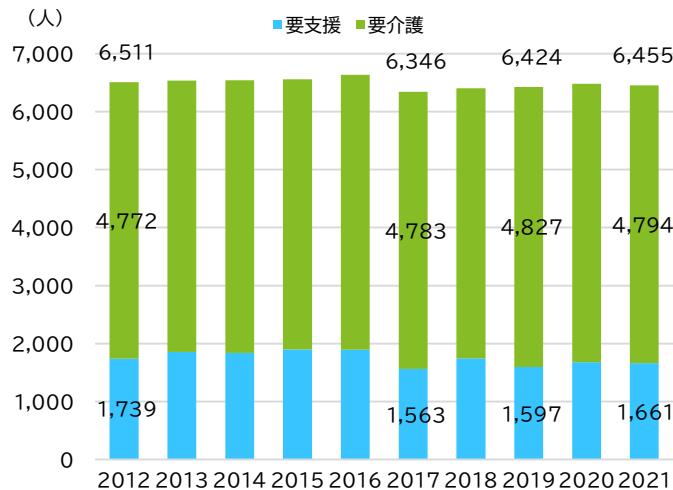
国民健康医療保険費用額の比較（2020年）

県内市で比較すると、唐津市は鹿島市に次いで2番目に低い水準となっている。一方、対全国比でみると佐賀県市部全体で1を超えており、全国と比較して低い値ではないことが伺える。



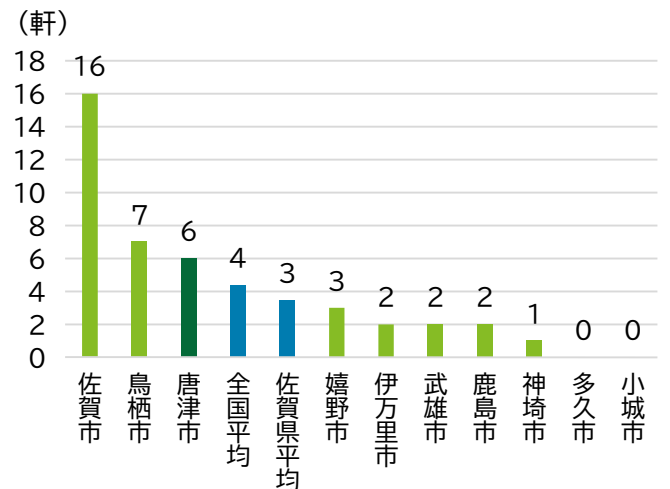
要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数の推移をみると、6,500人前後で推移しており、2017年以降は微増傾向にある。要介護者は4,800人前後、要支援者は1,700人前後で推移している。



障害者支援施設等数（2021年）

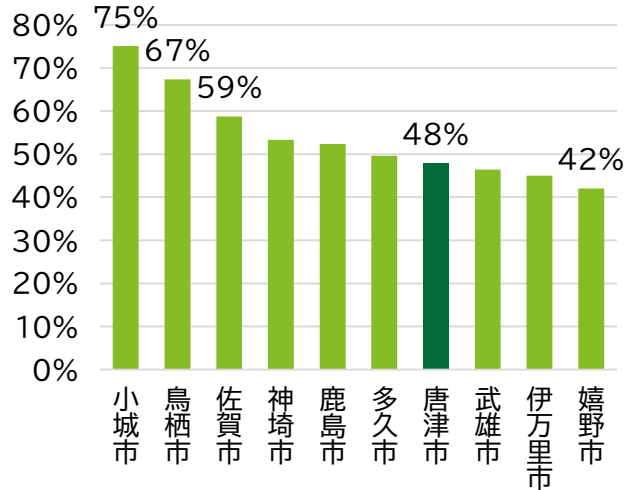
障害者支援施設等数を県内市で比較すると、佐賀市、鳥栖市に次ぐ3番目に多い6軒となっている。全国平均、佐賀県平均は上回っている。



1 - 5.【都市基盤・生活環境】

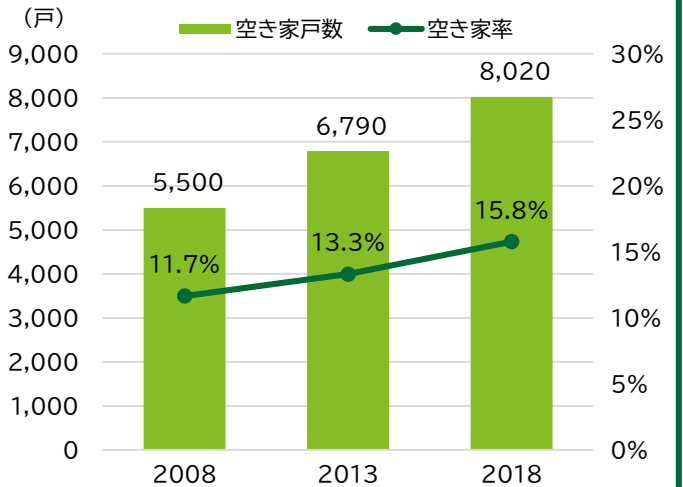
総面積に占める可住地面積の割合（2022年）

唐津市は48%で4番目に低い値となっており、小城市で75%、鳥栖市で67%、佐賀市で59%であることを踏まえると唐津市の土地利用率は低いといえる。



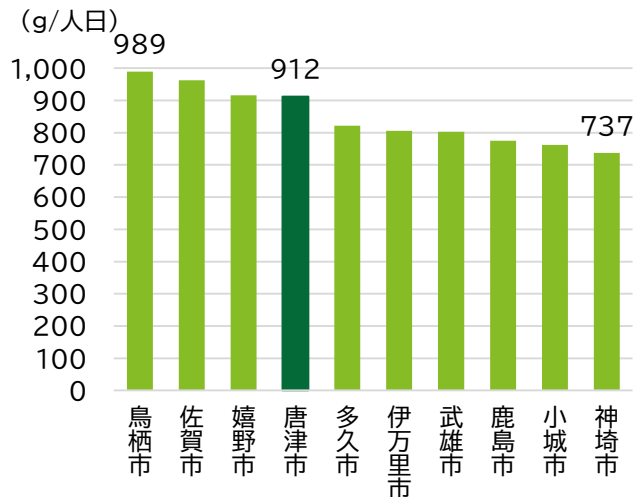
空き家戸数・空き家率

2008年以降一貫して増加傾向にあり、2018年は8,020戸で2008年より約2,500戸増加していることがわかる。空き家率もそれに伴い上昇し、2018年には15.8%となっている。



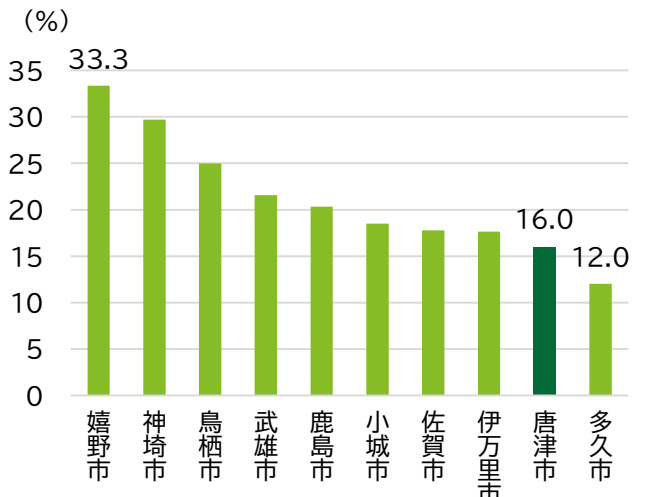
一人1日当たりごみ排出量の県内比較(2021年)

2021年のごみ排出量を県内市部で比較すると、唐津市は鳥栖市、佐賀市、嬉野市に次いで4番目に高くなっている。



リサイクル率の県内比較（2021年）

2021年のリサイクル率を県内市部で比較すると、唐津市は多久市に次いで2番目に低い値となっており、ごみのリサイクル体制には課題があるといえる。

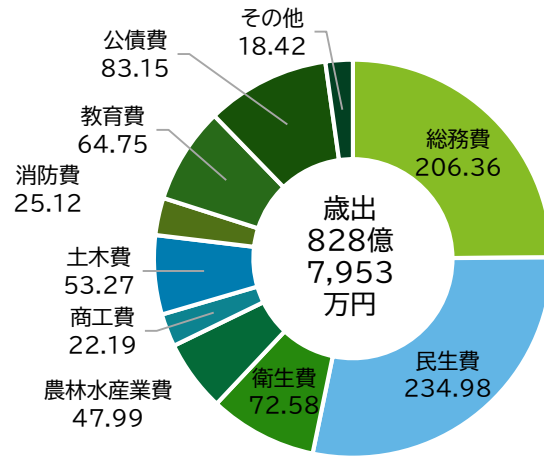


1 - 6.【財政】

令和4年度一般会計歳出決算額（目的別）と推移

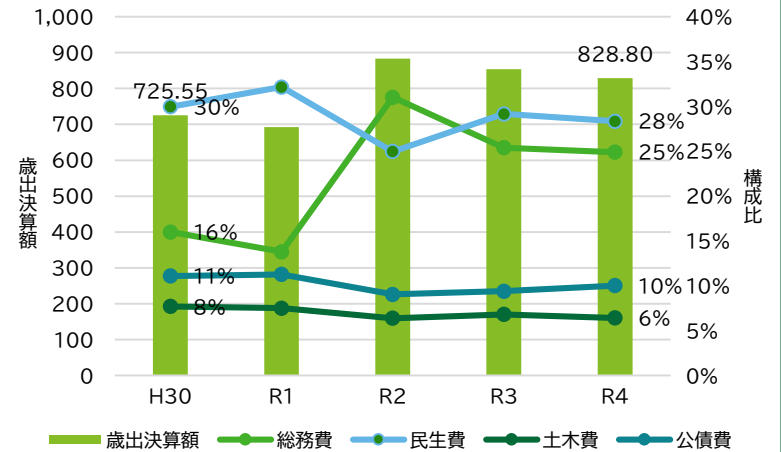
目的別歳出の推移をみると、令和2年度に総額が約200億円上昇した後は緩やかな減少傾向にある。
令和4年度は前年度に比べ約25.3億円減少しているが、新庁舎整備費や鏡山小学校改築事業費の減額が多大きく影響している。

(億円) 令和4年度一般会計歳出決算額(目的別)



(億円)

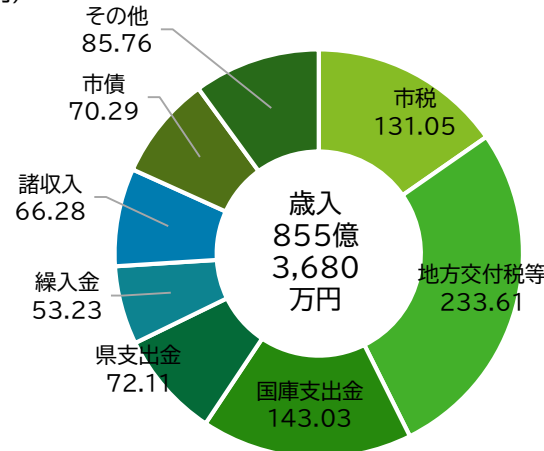
歳出(目的別)の推移



令和4年度一般会計歳入決算額と推移

歳入構成をみると、市税、地方交付税がその中心となっており、歳入の42%を占めている。これらの収入は、用途の制約を受けずに使い方を独自に決めることができる「一般財源」の中心となるものである。
市内に大きな企業が比較的に少ないことなどから市税収入が少ないため、必要な一般財源の確保を地方交付税に大きく依存している。

(億円) 令和4年度一般会計歳入決算額



(億円)

歳入の推移

